

Club de Amigos de Latinoamérica de Osaka



Amigos

ともだち



NO.132

2023年12月

最近の CALO の活動

今年の活動について簡単に報告をさせていただきます。新型コロナウイルスが蔓延した3年間、CALOの活動を縮小することになり、例会も一か月おきに開催することになりました。急に決めないといけないことがあれば、オンラインまたは、メッセージなどで連絡を取り合ったりしています。

無理せず、できる活動を行っています。



印刷されたプリントで勉強している様子

今年はいくつかの活動と国内の活動を行いました。ここでは、ペルーの活動について説明していきます。

アマゾン地区の学校にプリンターとコピー機の寄贈

まず、皆様の支援のおかげでペルーのアマゾン地区の学校にプリンターとコピー機を寄贈することができました。この地域では教材不足などを補うためにこれらの機器は必須のものなのです。

学校からお礼の手紙が届いたので、ご紹介します。

大阪ラテンアメリカの会 (CALO) 〒562-0026 大阪府箕面市外院 3-24-14 (梶田方)

HP <http://calo.whitecafe.jp/>

FAX: 072-728-6636

銀行口座: 三井住友銀行 箕面支店 普通 0429270

郵便振替: 00980-0-57563

ラテンアメリカの会 (CALO) の皆様へ

いつもお世話になっております。

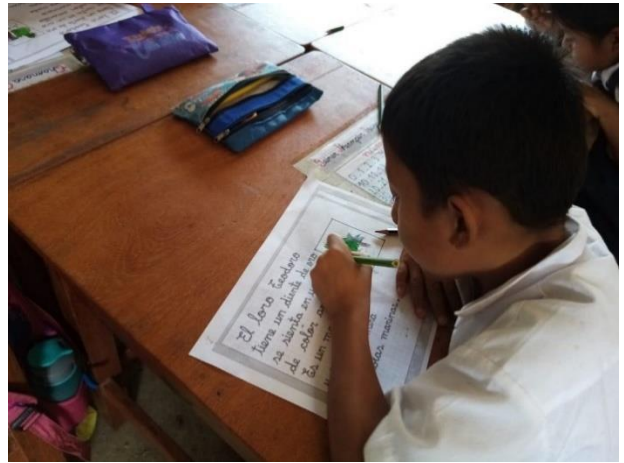
大阪ラテンアメリカの会 (CALO) の皆様、2023 年 7 月、タラポト市で購入したプリンターとコピー機のご寄付、本当にありがとうございます。

皆様が寄付してくださったプリンターとコピー機は、教育や学習を円滑に進める上で非常に重要な役割を果たしていますし、本校の児童にとって必要不可欠なものとなっています。心から御礼申し上げます。

皆様のお力添えは、学習向上のために重要です。今後ともよろしく願いいたします。

ナシラ・ロサノ・サーベドラ校長

(教育機関 0800 号 ルイス・アルベルト・ブルツン・ピサロ ワイク- ラマス)



子どもたちの学習している様子

外国にルーツある子どもの教育支援活動

今年から日本における外国につながる子どもの教育支援に CALO も加わることになりました。

移民でやってきた子どもの多くは言語の課題やそれに伴う学習課題を抱えています。特に三重県ではペルー人やブラジル人の子どもが多く、CALO の代表であるオチャンテ・ロサと事務関係であるオチャンテ・カルロス (筆者) はこれまで毎年支援活動を三重県伊賀市と開催してきました。

活動のスタッフとして大学生とし、それぞれ勤務する (ロサ、カルロス) 大学で募集をかけ大阪を初め、関西各地から学生が参加します。学生の中に教員を志望している学生や国際支援に興味ある学生など、本活動は子どもの支援だけでなく学生自身にとって異文化教育や多文化共生の理解をする良い機会にもなりました。

今回の活動は 8 月 8 日と 9 日の二日間で行われました。会議や研修を重ね学生が子どものニーズを理解し、当日のために様々なアクティビティを企画しました。勉強だけにとどまらず、楽しい時間となるように交流の時間として工作やゲームなどを考えました。



CALO で翻訳した古絵本の活躍もありました！

大阪ラテンアメリカの会 (CALO) 〒562-0026 大阪府箕面市外院 3-24-14 (梶田方)

HP <http://calo.whitecafe.jp/>

FAX:072-728-6636

銀行口座:三井住友銀行 箕面支店 普通 0429270

郵便振替:00980-0-57563

また、2日目に伊賀市消防局の協力により見学もさせて頂きました。学生スタッフがずっと付き添って、子どもとたくさんコミュニケーションをとってもらいました。子どもの中には日本語が流暢に話せるけど漢字が苦手だったり、また来日まもなくで日本語が話せない子どももいました。大学生にとってこのような背景に直面することが初めての体験だったと語っています。



毎年、学生に大学の紹介もしてもらっています。学生がパソコンで作ったプレゼンテーションで「大学がこんな場所で、こんな勉強ができるよ」と分かりやすく教えてもらいました。この発表の

消防士のおかげさまで、職業体験？も子どもと大学生も参考になったかもしれません。

狙いには児童の進学や大学の存在の大切さを伝えることにあります。言語課題、学習課題を抱える外国にルーツある子どもにとって進学が大きなハードルになっており、高校へ進学しても退学したりすることもこれまで大きな課題になっています。この活動で大学生と触れることで大学の楽しさを感じ、いつか行ってみたいと少しでもなったらと思って企画しました。

今回参加した学生のために CALO が交通費支援 (2 万円～3 万円) に関わることになりました。学生に CALO の存在もしてもらうことで今後の活動に関わることも期待できると考えます。今回関わった学生の声をまとめてみましたので下記の通りになります。

①「今回このボランティアに参加して、外国にルーツのある子に対しての接し方など、どういった点で困っているのかとか直接この目で見て感じる事が出来たなと思いました。また外国にルーツがある子どもはその子が日本語を喋れても保護者の方があまり流暢に喋ることが出来なかったりして家庭で宿題が進まない傾向にあるかなと考えました。こういった環境にも対応出来る力を今後作れるように大学生生活を過ごして行きたいと思います。」(大学生1回生、教員志望)

②「今回の活動の意義は、一人一人のペースに合わせて勉強を教えてもらい、勉強の遅れを取り戻すことと、外国の子どもは言葉の壁があり、勉強についていけないということを知り、教師になったときに、勉強の教え方やコミュニケーションのとり方を学ぶことだと考える。

今回の活動を通して、初めて外国の子どもと関わり、私は普通に授業を受け、理解出来ていたが外国の子どもは言葉の壁があり、理解できないところがたくさんあることがわかった。同じ外国の子どもでも学力や言葉の理解度が違うので一人一人に合わせた教え方をすることが大切だと思った。」(大学生1回生、教員志望)

大阪ラテンアメリカの会 (CALO) 〒562-0026 大阪府箕面市外院 3-24-14 (梶田方)

HP <http://calo.whitecafe.jp/>

FAX:072-728-6636

銀行口座:三井住友銀行 箕面支店 普通 0429270

郵便振替:00980-0-57563

③ 「漢字を書くことは好き」、「読み方や漢字の形を覚えることはできる」という子どもたちが多かった反面、学習している様子を見ると、覚えた漢字を実用することができていないことに気づいた。子どもたちは漢字を学習する際、漢字の使い方より、覚えることに重点を置いているのではないかと感じた。また、算数の文章問題に苦手意識を持っている子どもたちが多いこともわかった。算数の文章問題では、与えられている情報（文章）から必要なものを取捨選択し、答えを求めることができるかを問うため、たくさんの数値が並べられ、必要のある情報以外にもたくさん情報が含まれている。そのため、どの子どもも苦手と感ずることが多い分野ではあるが、日本語の習得が不十分である子どもたちにとっては、「は」や「が」などの助詞がたくさん使われたり、「また」や「しかし」などの接続詞で文章がたくさん並んだりする上、必要のない情報が含まれているとなると、式を導くことができないということがわかった。」（大学生3回生、教員志望）



大学の紹介で「ふりがな」をふって分かりやすい紹介をしてもらいました。

絵本の配布活動

郵便局を通してのペルーへの郵送がまだできない状態であります。しかし、知り合いがペルーに帰るため、絵本を持って行ってくださることになりました。ジャネットさんに手渡と思っています。しし、市内の学校に寄付することができました。今後も少しずつこの活動をしていきたい

寄付のお願い：

郵便局払い込み用紙を同封しております。必ずということではありませんが、できましたら CALO の活動のためにご協力いただければ幸いです。ペルーの生活困難地域の学校からの要望に応じてできる範囲での支援を行っていきたくと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

あともがき：

説明があったように、例会は一か月おきに開催しています。12月9日に2023年最後例会を行いました。早い～ですね！皆様2024年も国内・外の活動続けて行っていきます。引き続きよろしくお願いいたします。

2024
Happy New Year

大阪ラテンアメリカの会 (CALO) 〒562-0026 大阪府箕面市外院 3-24-14 (梶田方)

HP <http://calo.whitecafe.jp/>

FAX:072-728-6636

銀行口座:三井住友銀行 箕面支店 普通 0429270

郵便振替:00980-0-57563